

定例研究会のご案内

(社) 東洋音楽学会関西支部 第150回定例研究会

と き 1990年9月8日(土) 14:00-17:00  
 と ころ 黒住教本部(最終頁の地図参照) まることセンター1階ホール  
 〒701-12 岡山市尾上神道山 ☎ 0862-84-2121(代)  
 交 通 JR岡山駅下車、午後1時までに同駅西口バス乗場(一般用)に集合。  
 教会のバスが会場まで往復。遅れた方は西口のタクシーで(約1500円)  
 帰りは本部のバスをご利用下さい。  
 担 当 小野盛孝(会場)、難波正(会場)、片岡義道(司会)  
 渡辺浩子(企画調整)  
 \* 会場の準備の都合上、参加予定の方は渡辺までご一報下さい。

14:00-14:40 【連続講座】 《楽譜の諸相》その11  
 吉備楽について  
 祭典楽 「人長舞」 家庭楽 「明石の浦」  
 演奏と解説 小野盛孝

14:40-15:10 【調査報告】  
 島根県宍道町木幡家の雅楽史料について 南谷美保

15:30-17:00 【ラウンドテーブル】  
 日本伝統音楽にみる地方文化の交流と伝播  
 コメンテーター 難波正、月溪恒子、南谷美保  
 コーディネーター 瀬山徹

(社) 東洋音楽学会関西支部 第151回定例研究会

と き 1990年12月1日(土) 14:00-16:30  
 と ころ 相愛大学 図書館 視聴覚室  
 〒559 大阪市住江區南港中4-4-1 ☎ 06-612-5900  
 交 通 大阪地下鉄ニュートラム、ポートタウン東駅下車徒歩10分  
 担 当 尾野耐子(会場)、山田智恵子(ビデオ記録)、酒井淳(司会)  
 渡辺浩子(企画調整)

14:00-14:40 【研究発表】  
 入朔祭における布団太鼓について 辻尾真弓  
 ——旧声原濱の伝承を中心として——

15:10-16:30 【研究発表】  
 『糸竹初心集』の背後にあるもの 馬淵卯三郎

## (24) ヨーロッパ音楽の力

櫻井 哲男

世界に音楽文化は数々あるのに、ヨーロッパ、特に近代以降のヨーロッパ音楽は、他のいかなる音楽に比べても大きな力（支配力、影響力）を持っている。考えてみれば、一つの地域の文化がこれほどまでに広く影響を及ぼしたということは、歴史的にもあまり例がない。音楽だけでなくヨーロッパの諸々の文化が、近代以降全世界を覆い始めた。思想、科学、技術……。そのどれ一つをとってもヨーロッパ抜きには語るができない。これは、どうもヨーロッパが到達した文明の高さに由来しているようである。水が高きから低きへと流れるごとく、高度な文明はより低地を求めて流出し、その地を覆う。文化は、文明とは違う。しかし、文明に伴って伝播しうるものではある。いや、しばしばそのようにして異質の文化が伝えられ、ある時は積極的に、ある場合は半ば強制的に異文化が取り入れられ、そこに変容がもたらされた。それは、一般論としてよくわかる。しかし、芸術も文明や技術や、他の文化諸要素と全く同じ経過を辿るのであるだろうか。どうも違うような気がする。価値とか美とか感性などという得体の知れないものが介在する世界であるだけに、他のものと違って、それぞれの文化において淘汰があるのではないかという気がする。

にもかかわらず、西洋音楽が、世界規模でなぜこんなに幅を利かせているのか。各々の文化に固有の価値を認める相対主義の立場からは、美的価値の普遍性などということは口が裂けても言いたくない。

結論を言おう。それは五線譜と十二平均律である。音楽の記録と表現法における究極の合理的システム、他のいかなる音楽文化も創りえなかったこの二つのシステムこそ、近代以降においてヨーロッパ音楽が世界を席捲する強力な武器だったのである。

## (25) ショルカトゥと動作

大谷 紀美子

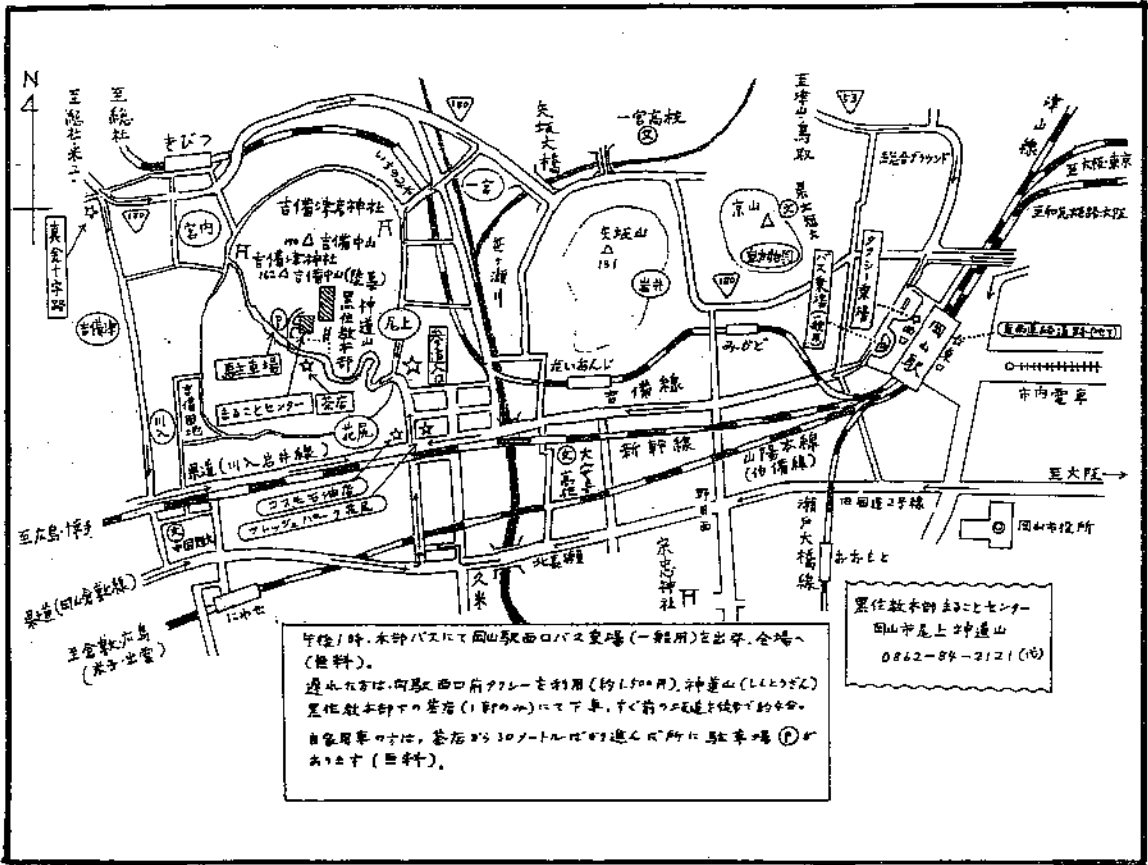
バラタナーティヤムというインドの古典舞踊のなかでヌリッタという表示的でない動作の舞踊を、習ったり練習したりするとき口唱歌のようなものを歌います。色々な動作にそれぞれ異なった口唱歌が歌われます。足の動作が同じか類似したものがひとつのグループにまとめられ、同じ唱歌を使います。口唱歌はショルカトゥといい、ムリダンガムという太鼓の口唱歌と関係があるといわれています。

例えば、「テイユンタッタ」というショルカトゥのグループの基本の動作は脚を前方または横に出し、かかとだけが床に接触、そしてまた元に戻されます。このグループには8種類のバリエーションがあり、脚の動作も少しずつ異なり、また腕や手の動作はかなり大きく違ってきます。踊り手たちはどのバリエーションかということ特定するためには、何番の「テイユンタッタ」と言ったり、腕で動作を示しながら「テイユンタッタ」と言ったりします。また、腕の動作を説明するときは、まず手の型（ハスタまたはムドラ）の名前を言います。例えば、両手を「カタカームカ」で胸の前に、次は腕を前にのぼして「アラパトマ」、そして、また元にもどし、次は横にひろげ、「トゥリパターカ」というと、少し経験のある踊り手ならすぐどのように踊ればよいかわかります。

踊り手たちはこの程度の説明とショルカトゥをいうだけで、一つの曲を座ったままでも習うことができます。また、おさらいをする際には、大抵一曲全部ショルカトゥを唱え、時々腕や手を動かしたりするだけで、ほとんど体を動かしません。初歩の段階で、ショルカトゥを唱えると自動的に体が動くように訓練されているので、踊り手にとってショルカトゥとは大変便利なものとなっているのです。



第150回定例研究会 会場案内



お知らせ

本年8月末日をもって今期の役員の任期が満了となり、選挙により新役員が選出されます。しかしその体制は、10月の総会までは定まりませんので、慣例により現役員が新年度の9月と12月の定例研究会を企画運営しております。これ以後の定例研究会等の支部活動については、新役員から各位あて通知がなされるはずですが、

編集室から

『支部だより』第7号をお届けいたします。今回は、とくに大阪から遠く離れた地方の皆様からも多くの原稿をお寄せ頂きました。お忙しい中原稿をお寄せ頂いた皆様、また、例会関係の連絡等でご協力下さいました皆様、本当に有難うございました。厚くお礼申し上げます。  
 第7号編集担当 渡辺浩子

入会などのお問い合わせ  
 (社)東洋音楽学会関西支部  
 〒559 大阪市住之江区南港中4-4-1 相愛大学音楽学合同研究室内  
 ☎06-612-5900 内線331